



No.107 2009.9.

発行 真言宗豊山派
北田山宝泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真琴

声明コンサート「魂の讃歌」を終えて

前回のり光でお知らせしたとおり、9月16日所沢市民文化会館ミュージアムにおいて声明コンサート「魂の讃歌」が開催されました。

出演した僧侶は27人。ときには華やかに、ときには悲しげに、ときにはかろやかに、ときには重々しく。それぞれ特徴を持った声明に、宝泉寺でもおなじみの大声で経典を読み上げる大般若と、6人の僧侶に太鼓奏者上田秀一郎氏を加えた迫力ある和太鼓演奏からなる本コンサートは、主催者が言うのも何なのですが、まさに大成功のうちに完結致しました。

一般の方々の関心も高く、当初は1回だけの公演予定でしたが、あまりの反響の大きさにこの規模のコンサートとしては異例の同日2回公演が急遽企画され、なおかつそれぞれの回で800人収容のホールが満員御礼という本当に嬉しい結果となりました。

この企画が持ち上がった6月後半からずっと、わたし（副住職）は携わった人間全員の仲介役である事務局をつとめてまいりました。この期間どんなことが行われていたか、本文をお読みの皆様だけに少し裏話をご披露致します。

まず共催者である市民新聞社よりお話をもらってから、僧侶の間で依頼を受けるかどうかの会合を開きました。本番まで3ヶ月もなく、途中にお盆をはさむこともあり、実はこの時点で難色を示す寺院方もおられました。最終的には受諾することとなりましたが、そのあとは執行部の決定。各寺院への出仕依頼。どのような内容で行うか。お金をどう工面するか。当然これらのことにはたくさんの意見が出ますので、折り合いをどうつけるか何度も話し合いを重ね計画は進みました。さらに当初は演出も最低限という話であったのですが私も含めて欲が出たと申しますか、せっかく観てもらうのだから照明や音響もしっかりしたいという全体の流れとなり、13人の舞台作りの専門家が加わる結果となりました。これが7月後半のことです。

お盆過ぎには、あらかた内容や演出も決まり、さあ後は本番まで練習を重ねるだけだと安心しつつあった8月後半に、前述の同日2回公演の提案が市民新聞社より出されました。1回を2回に増やすということは単純なことではありません。出演者への負担は言わずもがなですが、舞台を作り上げる都合上、時間の制約が大変厳しいものとなりますし、スタッフを増やせば当然お金がそれ

だけかかります。本番までに9割方進んでいたものが5割ぐらいに戻ってしまったというのが執行部の率直な感想でした。結局、予告と変わってしまいました。太鼓の時間を減らし、法要の内容も削り、舞台演出を変更せざるを得ませんでした。

そういった多くのハードルを越え、できあがったものがこのコンサートです。いつもお世話になっているお檀家さんに、そして仏教に興味をお持ちの皆さんに楽しんでもらいたい。あるいは仏教に全く興味を持っていない方々に仏教を知る最初の機会としてもらいたい。そんな気持ちを、参加した僧侶全員が常に持っていたからこそ成功した企画です。

初めて大きな企画をまかされて、右往左往の3ヶ月弱でした。正直自分のいたるなさを痛感することばかりでしたが、なんとかやり遂げて今は充実した気持ちです。今度はもう少し小さな規模で身近な人たちを楽しんでいただければと考えています。

最後に、本公演を観覧してくださった皆様にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました！！（了）

平成21年 るりの会

9月11日、いつものように夕方になると学校から帰った子どもたちが三々五々集まってきます。こちらはさあ今年も始まるぞと心に言い聞かせて臨むのです。総勢36名、1年生から6年生までこの年代の年齢差はとても大きく、この異年令集団をまとめるのはかなり難しいものがあります。反面良さもあり、自然と遊びの渦が湧き起こってくるのです。ロープを出しておけば大縄跳びが、ボールを出せばサッカーやドッジボールが始まるのです。部屋でも何かとみんなながつるんで遊んでいました。

大縄跳び、近くで見ていた小僧(しょうそう)も心がうずきみんなの列に入って楽しみました。ところがロープを引っかけて見事に？転んでしまい膝小僧に擦り傷が……。一方では蹴ったボールが木の上に引っかかってしまいました。さてどうしたものかと思案一瞬、女の子がスルスルっと木に登りボールを落としてしまいました。その見事なこと感心しきり、毎年新鮮な驚きを与えてくれ、また子どもたちの一年の変化ぶりを確認しあうのもこちら側の楽しみの一つです。ご父兄のお一人に文章を寄せていただきました。

お泊まり会に(るりの会)参加させて頂いて

濱野春美(保護者)

9月12日土曜日の朝、子どもたちはみんな眠たそう！

宝泉寺恒例で子どもたちにとっては夏の終わりの楽しみの一つ、お泊まり会が行われました。

朝のお迎えの際には保護者も本堂に上がりお勤め。子どもたちは眠そうではありましたが一生懸命正座をしてお経本の持ち方や手の合わせ方などを学び、般若心経をお唱えしました。普段では経験出来ないお寺の生活でした。

私には25と24歳になる甥と姪がおります。その二人が言うことには社会に出て子どもの頃のお寺のお泊まり会を話題にすると「へー、いいなあ」「そんなお寺があるの」といわれるようで、自慢話の一つになっているようです。きっと今年参加のみんなも良い思い出になり将来こんなことがあるかもしれません。多様な生活経験の一つとして思い出になって欲しいものです。

お勤めの終わりにご住職が「来年も参加したい人？」との問いかけにはほとんどが手を挙げていました。「来年来たくない人？」には傍らで副住職一人だけがそっと手を挙げていらっしゃいました。(笑)

一晩とはいえそれはそれは大変だったと思います。ご住職、副住職、奥様やスタッフの皆様には毎年のこと本当にありがとうございました。来年も又一回り大きくなって集まってくることでしょ。



ホットドッグ調理現場

朝食は牛乳パックで作る、ブロックそばでは火が立ち上がっています。こんなとき誰が言こともなくみんなお行儀がいい。

濱野さんがまだ一人で、お勤めの頃ボランティアで参加していただいたことがありました。年月も経てもう数年もすれば親子2世代が参加することにもなりそうです。今年は多くの中学生がやってき手伝いをしてくれ彼ら自身も楽しんでいいたようでした。実は我が娘二人、夏休みも帰ってこなかったのにこの日のためにそれぞれ友達をつれて手伝いに来てくれました。このような輪もうれしいですね。

オンコロコロ・・・(薬師真言) 後日談

今年、5月末の大般若会、太鼓の演奏に合わせて参詣の皆さんと宝泉寺本尊

の薬師如来の御真言を唱えました。思いおこせばどこかで聞いたことがある方もおいでではないでしょうか。実は以前にも「実家の母がいつも言ってくれました」という話をおききしたことがありました。先般、このことでお檀家の方からお葉書を頂きましたのでご紹介致します。

拝復 幼いときにお腹が痛くなって訴えると「バツバヤん」(おばあちゃん)が「オンコロコロセンダンマダアゲソワカ」を繰り返し唱えてさすってくれたことを鮮やかに覚えています。人生の終盤になってこれがなんと薬師如来の御真言とわかり驚きと感謝です。早速コピーをとり愚兄にも送って知らせた次第、ありがとうございました。 敬具

普通私どもは「おんころころせんだりまとうぎそわか」となっていますが、それと違うのは多分民間で伝承されてきたからだと思います。舅、姑や隣のおばさんから嫁さんへ、あるいは地区の何らかの講などで口伝えに継承されたものが正確に受け継がれなかったものでしょう。

今ならさしずめ「医者へ行こう」「薬飲みなさい」というところでしょうか。そう簡単に医者へは行かなかった時代は当たり前、多分それで治る気がしたこともあったでしょう、人間には医薬によらない癒し効果を果たすものもあり否定するものでもありません。濃密な家族関係や地域の生活、古き良き時代を思いおこしていました。

NPO 法人

颯の扉バザー

9月22, 23日

10時～3時半

宝泉寺境内

シルバーウィーク、今年から出現？敬老の日を含む大型連休をこう呼ぶそうです。連休を利用して今回は2日間お邪魔させていただくことになりましたのでよろしく願い致します。

編 集 後 記

・秋の訪れが早いような気がするがどうでしょう。鈴虫が例年より早く鳴き出し秋明菊は8月から既に咲いていた。彼岸花も早かった。二期咲きの桜も2、3花をつけだした。秋の味覚、柿。今年は大わかに実っている。先日気がついたら下の方があらかた無い、既に味わっておられる方も・・・？これもいつもより早い気がする。ちょっと上の

方にはまだ一杯残っていますのでどうぞ。
・覚醒剤事件の酒井法子さんが釈放、自分を律することの難しさを教えています。
・政権が変わりました。熱しやすく冷めやすいのは人間の常ですが、なにごとも性急な判断はしない方がいいといつも思っています。

Sep.18.2009 (琴)